

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	株式会社 東京演劇集団風
公演団体名	東京演劇集団風

内容
<p>◆子ども達と俳優が共に『星の王子さま』の1場面を創り上げる</p> <p>演出家の指導のもと、子ども達が参加共演する場面の実演練習を行います。 王子さまが自分の星へと旅立つクライマックスシーンの歌・台詞・動きを俳優と一緒に合わせて、場面を創っていきます。 学校や子ども達ひとりひとりにとって、思い出深い公演が行えるよう、全校の児童・生徒が参加し、演劇を実体験できるワークショップです。 また、希望があれば、実施前後の時間や休憩時間には、俳優・スタッフとの交流や、道具・機材の体験を行う機会も設けています。 俳優と歌・台詞でかけあいたいが、心配なときは、児童生徒はマスク、または希望があれば劇団が用意したフェイスシールドを着用して参加します。 歌・台詞の参加が難しいときは、児童生徒は身振りや手話で歌・台詞を表現し、俳優と一緒に場面を創ります。</p>
<p>◆ワークショップの流れ</p> <p>【1 作品解説】 『星の王子さま』のあらすじや、参加場面の内容を説明します。</p> <p>【2 俳優との実演練習】</p> <ol style="list-style-type: none">① 俳優の実演とともに〈立つ・星を見上げる・座る〉動きを練習② 王子とかけあいで歌うソング「ぼくは行く」に取り組む (マスク・フェイスシールドの着用 または 身振り・手話歌でのかけあい)③ 旅立つ王子に呼びかけるセリフを、俳優と練習 (マスク・フェイスシールドの着用 または 身振り・手話での呼びかけ) <p>【3 通し稽古】 本番通りに俳優たちが共演場面を演技し、練習した〈動き・歌・セリフ〉を組み合わせ、クライマックスを実際につくってみます (マスク・フェイスシールドの着用 または 身振り・手話での演技)</p>

◆ワークショップに向けて

ワークショップ実施前に開催校に出向き、事前に先生方と打ち合わせを行います。上演作品のあらすじ・参加共演の内容をお話ししながら、先生方の要望を伺い、学校ごとにプログラムやスケジュールを提案・相談します。



《コロナ対応》

- 全学年が一同に集まるのが難しい場合の対応
 - 一学年のみでの実施
(一学年が実施する様子を他学年の先生方にご覧いただき、先生方に本番までに指導をお願いする／多学年はリモート(映像中継)にて参加する)
- 別日での実施が難しい場合の対応
 - 本公演同日での実施
(作品の上演台本、参加場面のソングを収録した音楽 CD、ワークショップで伝えている内容をまとめたプログラムをお渡しし、学校内で事前指導をお願いする)

コロナのため、集えない、歌えない状況であっても、子供たちが「私たちも一緒につくるんだ！」と本番への期待感を高められるよう、先生方との打合せを細やかにしながら、実施していきます。

タイムスケジュール (標準)

ワークショップ準備 約 30 分	ワークショップ 1 時間 30 分 (授業 2 時限分/休憩 10 分)	・作品解説 ・実演練習 ・役者、スタッフとの交流	本番に向けた先生方との 打ち合わせ 30 分～1 時間
---------------------	---	--------------------------------	-----------------------------------

派遣者数

演出(浅野佳成)、俳優(王子さま役:白根有子/花役:渋谷愛/ヘビ役:栗山友彦)、スタッフ
※バリアフリー上演に向けて、手話通訳が 1 名同行する場合があります。

—————計5名

学校における事前指導

事前指導は必要ありません。

まずは、共演する俳優と「やってみること」から始めていきます。

・ワークショップから本番の期間中に必要な資料(台本・楽譜・音楽CD)を事前打合せの際にお渡しします。公演当日までに、音楽CDの放送、上演台本の児童生徒への配布などをお願いしています。

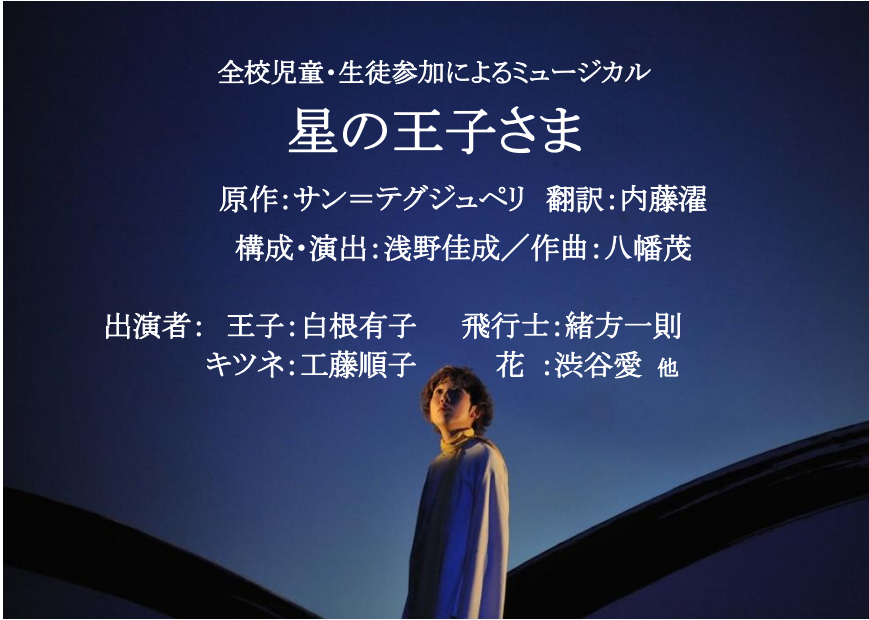
・ワークショップに参加できない、合同開催校や本公演当日にワークショップを実施する場合でも、共演のために必要な資料(児童生徒配布用上演台本/楽譜・音楽 CD)を事前にお渡しします。

・ワークショップ終了後、担当の先生方と打合せを行い、本番までの取り組みや、本番当日のスケジュールなどを提案します。

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	株式会社 東京演劇集団風
公演団体名	東京演劇集団風

<p>演目</p> <p>——大切なものは目には見えない——</p> <p>人や物事の出会いを暖かく見つけ、強く美しく生きる星の王子さま。 地球の美しさ、そこに生きている私たちが失くしてはならないものを問いかけてくる。 王子と一緒にたくさんの人に出会い、別れ、大切なものを探す旅に出る 子ども達とつくるものがたり。</p>  <p>全校児童・生徒参加によるミュージカル 星の王子さま 原作:サン＝テグジュペリ 翻訳:内藤濯 構成・演出:浅野佳成/作曲:八幡茂</p> <p>出演者: 王子:白根有子 飛行士:緒方一則 キツネ:工藤順子 花 :渋谷愛 他</p> <p>◆上演時間 1 幕:50分 休憩:10分 2 幕:55分(カーテンコール含め) 上演、休憩時間は前後する可能性があります。</p> <p>※ご希望がございましたら、バリアフリーでの公演も可能です。 2019年バリアフリー演劇を開始しました。手話通訳・音声ガイド 日本語字幕・開演前舞台説明・バックステージツアーを行い 障がいの有無や年齢の違いなど、今まで演劇にあった、 見えない壁を無くしたみんなで楽しめる作品作りも行っています。</p>
--

派遣者数	
出演者 : 9 名	
スタッフ : 12 名	※バリアフリーの場合
合計 : 21 名	出演者 11名、スタッフ 13名、合計 24名

タイムスケジュール（標準）

前日											舞台設営 (道具搬入)	
時間	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	
当日	舞台設営		リハーサル バックステージツアー		本番 (2時間)		舞台撤去 (2時間)					

※舞台設営にかかる時間は、体育館によって異なります。上は基本的なタイムスケジュールです。打ち合わせをしながら、一緒にスケジュールを決めていきます。

実施校への協力依頼人員

搬入時や舞台設営・撤去の際に、お手伝いをお願いすることは基本的にありません。

演目解説



◆あらすじ

遠いはらかな星に、たったひとつの花と暮らしている小さな王子さま。彼は星をめぐる旅を続けて、地球にやってきました。王子さまは地球で、飛行士やキツネと出会い、〈友だち〉とは何か、〈かけがえのないもの〉とは何かを学び、成長していきます。一年経ったある日、王子さまは大切な花のために地球や友だちに別れを告げて星に帰ることを決意するのです。

◆『星の王子さま』上演への想い

1943年第二次世界大戦のさなか、サン＝テグジュペリによって『星の王子さま』は描かれました。以後、世界54カ国で翻訳・出版され、世界中の人々に愛され、読み継がれてきました。

サン＝テグジュペリは『星の王子さま』で、ものごとの真実を心で見たい、生きることを見つめ直してほしい、というメッセージを後から生まれてくる世代へ送ってくれています。この物語を通して、子ども達が世界を愛し、人を思いやり、生きる力を大切にしてほしい。さらに彼らの成長を願い、そして見守る先生方と一緒に舞台に親しんでほしいと考えこの作品を上演しています。劇団では、全国巡回公演でおよそ1500ステージの上演を重ねており、特別な代表作です。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

演劇を身近に、演劇を作る楽しさを

子ども達が演劇を身近に感じ、人との関わりの中で演劇をつくる楽しさを体感できるように、参加・共演場面を用意しています。子どもたちはクライマックスシーンを俳優と一緒につくります。誰もが共演者となり、表現する楽しさ、人ともものをつくる喜びや達成感を共有してほしいと考えています。

◆全校児童・生徒が共演する『星の王子さま』のクライマックス

王子さまが、自分の星に帰っていくラストシーンに全校児童・生徒が参加します。児童・生徒のみなさんと俳優と一緒に場面をつくりあげます。



↑子ども達が俳優と一緒に作るクライマックスシーン
(事前ワークショップで練習します)

《コロナ対応》

- 身振り・手話歌での表現
通常の「歌う」ことが難しい場合は、手話・身振りをを用いて、身体で「歌う」ことを提案します。
- ワークショップが事前に実施できない場合は、公演当日にワークショップを実施

◆最上級生が舞台上で歌う「旅立ちの歌」

卒業前の思い出のひとつとなるよう、最上級生全員が舞台上に立ち、地球へ旅立つ王子と共に「旅立ちの歌」を歌います。

《コロナ対応》

- 舞台立つ子供たちのフェイスシールドの着用
- 身振り・手話歌で表現し、参加する



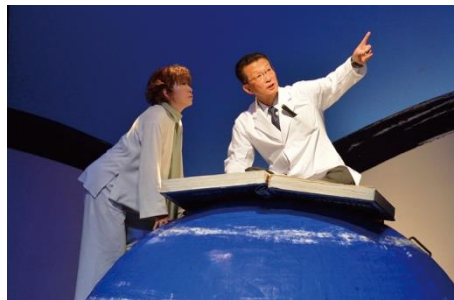
↑俳優と最上級生が作る旅立ちの場面
(当日リハーサルで練習します)

◆先生方の共演シーン

「先生も舞台と一緒につくっている」という喜びを感じられるよう、王子が様々な星をめぐる場面で先生方に「呑み助」役、「地理学者」役での出演をお願いしています。



↑「呑み助」役を演じる先生
(当日リハーサルで練習します)



↑「地理学者」役を演じる校長先生

● 出演される先生方のフェイスシールド着用が可能です

◆演奏による参加

王子さまが歌う劇中の歌で、吹奏楽部や音楽クラブが、演奏で参加することも可能です。

児童生徒とのふれあい

舞台と多面的に触れ合う

さらに、演劇への興味・関心を育み、舞台づくりのプロセスに多面的に触れられるように、交流・体験できるプログラムもつくりました。

◆バックステージツアー(舞台裏見学)

俳優とスタッフが、体育館に設営された舞台を案内します。本番で使用する道具や衣装に自由に触れる、表からは見えない舞台づくりの仕組みと工夫を体験します。



↑ 舞台セットに登っている児童達



↑ 実際の小道具に触れる児童達

● フェイスシールドの着用

俳優・スタッフの着用はもちろん、子供たちが安心して体験できるように、フェイスシールド・ビニール手袋をお渡しします。

● 子供たちが触れるものの定期的な消毒を行っています

◆音響・照明のオペレート体験

舞台を支えているスタッフの仕事を体験します。音響や照明の専門スタッフによる、スポットライトの仕組みや音の出る仕組みなどの説明を受け、子供たちが実際に操作してみます。



↑ 音響機材の操作をしている生徒達



↑ 照明機材の体験をしている児童と先生

● フェイスシールドの着用

俳優・スタッフはもちろん、子供たちが安心して体験できるよう、フェイスシールドをお渡しします

● 音響・照明オペレート席には、飛沫防止用アクリル板を設置し、子供たちが触れるものへの消毒を行っています

◆ 共演者・スタッフを身近に感じる様々な交流

俳優・スタッフと「将来の夢」や「職業」について話し合う座談会。

終演後に俳優と触れあい、感想を伝え合うなどの機会をつくります。



↑ 劇団員と話す児童達



↑ 役者や出演した先生とハイタッチする児童達

このような参加・体験を通して「みんなと、先生と、一緒に舞台をつくれた！」という感動が、子供たちの経験、学校のかげがえのない思い出となることを願い、プログラムをつくりました。出会いと触れあいの中で、子供たち同士、また子供たちと先生の間には新しい「発見」や「対話」が生まれることを期待しています。

《公演全体のコロナ対策》

「新型コロナウイルス感染防止対策実施に関する希望チェックシート」を作成し、先生方と以下の対策内容を事前に確認して、実施しています。

● 換気時間の延長

(通常10分の休憩時間を延長し、会場の換気を行う)

● 会場入場・退場時の検温・消毒の実施、足裏消毒マットの設置

● 基礎疾患等の理由で会場に入れない子供に向けたリモート鑑賞(映像配信)の実施

● 使用前後の体育館全体の清掃・消毒

● 子供たちへのフェイスシールド・ビニール手袋の配布

《劇団全体の基本的コロナ対策》

- 毎朝・毎晩の検温実施／作業時のマスク・グローブの着用
- 俳優・スタッフの移動車両の清掃・消毒